

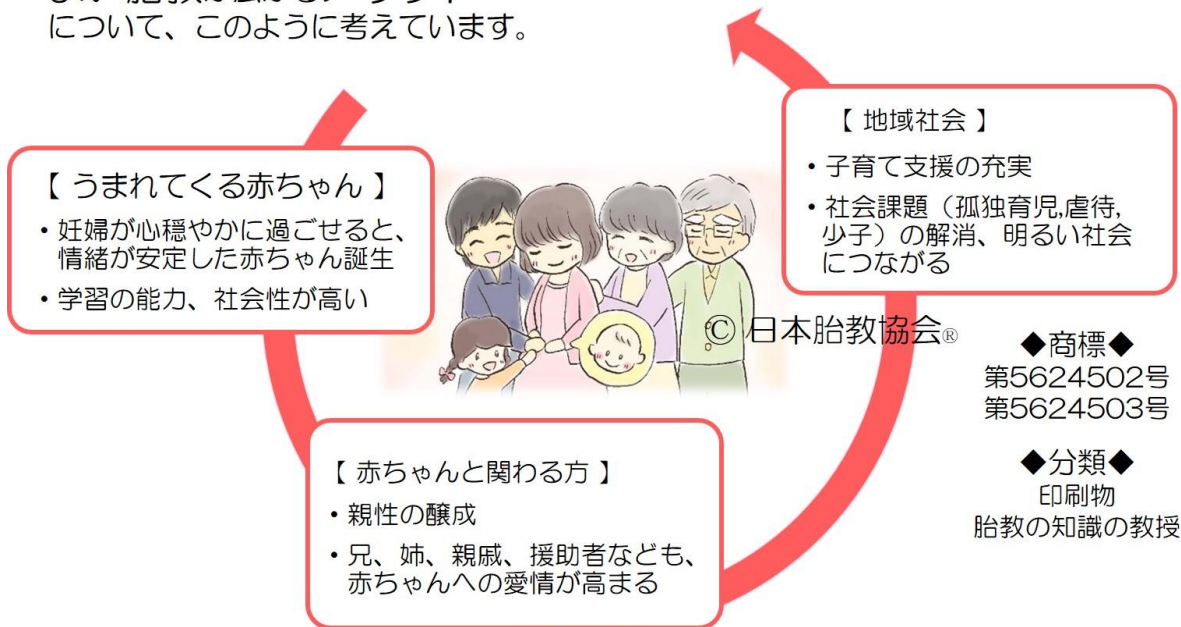
# よい胎教で、しあわせな家庭、明るい社会づくり

～「思い」つなぐ胎教アドバイザー®プロジェクト～

胎教アドバイザー®資格者の思い、理念は、「よい胎教で、しあわせな家庭、明るい社会づくり」です。広い意味での「胎教」について、日本胎教協会では、「おなかの赤ちゃんに、よい環境づくり」と定義しています。

日本胎教協会は、

よい胎教が広がるメリット  
について、このように考えています。



さて、2014年までの10年間、妊産婦の死因1位(東京都内)をご存知でしょうか。

文春オンライン(2017/9/27 配信)によると、妊産婦の死因1は「自殺」です。

2016年までの2年間においても、妊産婦の死因は、自殺が最も多いことがニュースでも配信され、妊産婦、その家族を取り巻く環境が厳しい状況にあることが、世間でも知れ渡るようになりました。その他に、孤立育児、虐待、親子心中などに関する暗いニュース心を痛めている人も多いでしょう。

京都大学の山極寿一/元総長は、夫婦だけで子どもを育てることはできない、人間の赤ちゃんは、生まれつき共同保育に適するように生まれてくる、ということをお話されています。人類は、共同養育で発展してきた歴史があるのだそうです。

胎教アドバイザー®資格者も、赤ちゃんが生まれる前から、妊婦さんとその家族が孤立することなく、共同で養育する環境を整えていくことの大切さを発信しています。

たとえば京都市の母子健康手帳(2015年版)の裏表紙には、「京都市は、妊娠初期からの子育てを応援しています」と明記されています。

赤ちゃんが生まれる前からの子育てにみんなで関心を持ち、妊産婦さんとその家族へのやさしさと、さらに、胎教アドバイザー®資格者の活動を通して、よい胎教が広がると、こんな素敵な世の中になる！と、次の3つのように考えています。

- 1) 情緒が安定した赤ちゃんが生まれる。(産まれてすぐから、子育てがスムーズにスタートできる。)
- 2) 赤ちゃんに関わる人(お母さん、お父さん、おにいちゃん、お姉ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚や赤ちゃんに関わる専門職、支援者など)は、赤ちゃんへの愛情が醸成される。
- 3) さらに、社会課題(たとえば孤独育児、虐待、少子など)の解消につながる。

そのような素敵な世の中を実現するためにも、すべての胎児と妊婦さん、そのご家族に、胎教を通じた感動が届くように、10万人の胎教アドバイザー®の活躍を目指しています。



〔 胎教アドバイザー®資格者 100 人に、その他の所持資格を調査 〕

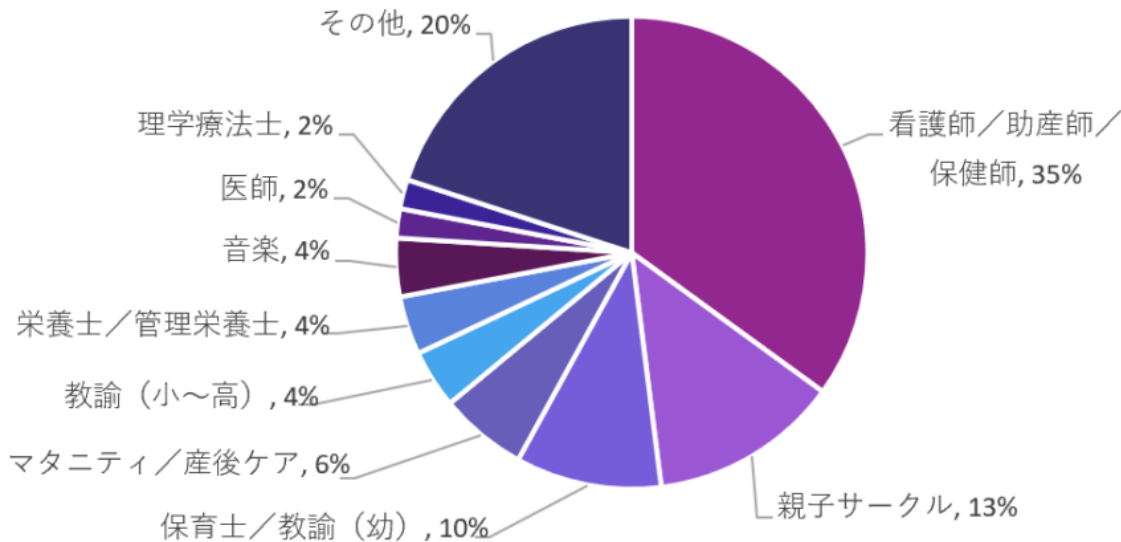
総合：赤ちゃん、子どもと関わる資格、免許所持者 全体の 67%

1 位：医療関係 全体の 39%

2 位：福祉、教育、栄養など、子どもと関わる資格所持者が 18%

(調査:2019 年 一般社団法人日本胎教協会 ※複数の資格、免許を所持している場合は一つのみを選択)

### 胎教アドバイザー®資格者のその他の所持資格・免許などを100人に調査



〔 胎教アドバイザー®資格取得の動機 〕

1 位：社会課題(孤立育児、虐待、少子化など)の解決に役立てたい。

2 位：わが子、孫に胎教を伝えたい。

3 位：理念に共感。

4 位：胎教について体系的に学びたい。

〔 胎教アドバイザー®資格者に期待されること 〕

厚生労働省が発表した人口動態統計によると、2018年に生まれた子どもの数(出生数)は、「91万8397人」と、過去最低、3年連続で100万人を割りました。

1人の女性が生涯に産む子どもの数にあたる合計特殊出生率(以下、出生率)は1.42と、2017年から0.01ポイント下がりました。

地域、国の人口維持のため必要な出生率は2.07~2.08とされ、これ以下で推移すれば人口減が続く計算で、政府が2025年度までにめざす子育て世代が希望通りに子どもを持てる「希望出生率」は「1.8」をあげています。

胎教アドバイザー®自身の家庭も幸せな方向に向かい、地域、社会の発展に貢献することをはじめ、「産みたくても産めない、2人目、3人目、4人目の妊娠出産に進めない」から「産みたい、もう1人育てたい」と思えるカップルが増えていくためにも、胎教アドバイザー®の活動が期待されます。

1人では小さな力ですが、みんなで力を合わせれば大きなことができる！

「よい胎教で、しあわせな家庭、明るい社会づくり」は、  
日本胎教協会認定 胎教アドバイザー®資格者の思い、理念です。